

テーマ2 海底地形について

三番瀬海域にかつて存在した澁の位置を大正時代の A. P. $\pm 0\text{m}$ ラインとともに、平成 14 年度測量の等深線図上に示す。(図-2)

また、勉強会において講師より提供された昔の澁に関する情報や、現在の海底地形に関する情報を以下に示す。

- 猫実川河口域から浦安の護岸沿いに「源ヶ澁 (げんがみお)」と呼ばれる澁があった。他の干潟は潮流だけが、源ヶ澁だけは常に流れがあった。
- 昭和 40 年代の半ば以降、源ヶ澁の上に浦安埋立地を作ったので、水交換が悪くなり底質が悪化した。浦安 D 地区の埋立が三番瀬の環境悪化の転機となった。
- 埋立に関連して海底を掘った場所は、新堀と行って、2 年ほどは地下水が湧いてウナギが沢山捕れるようになったが、その後地下水が塩水になった。
- 塩浜 3 丁目から浦安にかけての海底は、D 地区着工前後の比較で 1m 位沈下している。浦安のノリ業者の網を張っていた記録から推定した。
- 沖の洲 (浦安日の出沖) が波で打ち込まれて、陸側、東側に向かってどんどん浅くなってきている。
- 市川航路の浚渫をするほど、市川行徳漁協前の貝殻島は大きくなる傾向がある。この貝殻島と、埋立地端部に吹き上がっている土砂で澁筋がせき止められ、流れが悪化した。

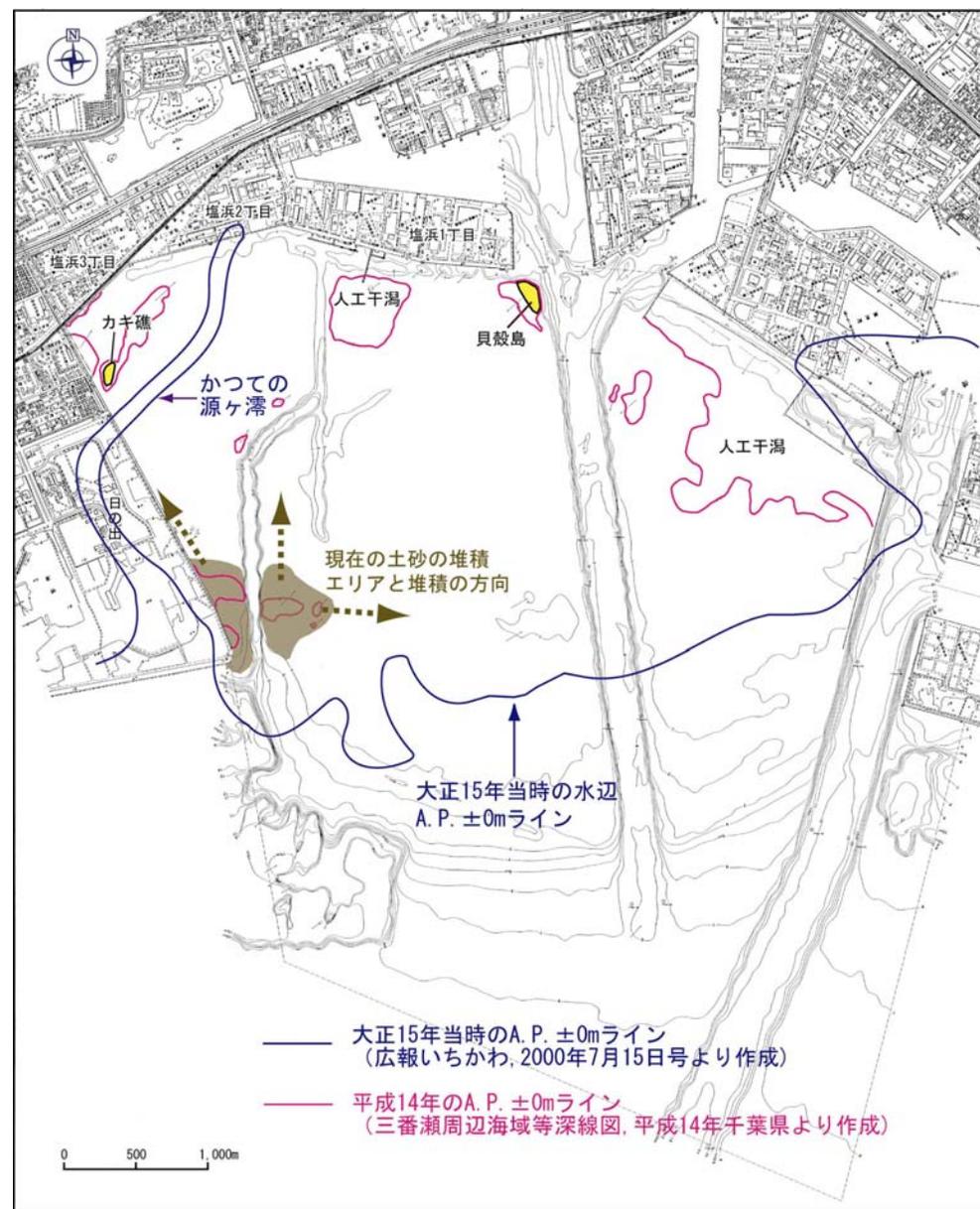


図-2 三番瀬の海底地形の変遷